書き抜き読書ノート 825	2011 年 1 月 1 日

嶋田正和著「東京大学教養学部の新たな教育プログラム」

IDE、現代の高等教育№ 527、2011 年 1 月号、IDE 大学協会、2011 年 1 月 1 日刊を読む

東京大学教養学部の新たな教育プログラム－ DeSeCo 国際標準プログラムと二人の総長－

１．OECD の DeSeCo(Definition and Selection of Competencies)が、21 世紀の学生に求めている国際標準学力キー・コンピテンシーをご存知だろうか？『キー・コンピテンシー国際標準の学力をめざして』(ドミニク・ライチェン、ローラ・サルガニク編集、立田慶裕監訳、明石書店、2006)によると、3 つの重要な能力が上げられている。

(１)社会的に異質な集団で共に活動できる力

(２)自律的に活動できる力

(３)対話の方法として道具を活用できる力

２．この本を読んだとき、私は総長補佐の時(2007 年度)に仕えた二人の総長の言葉と密接に関わることに気づいた。小宮山前総長は、心を捉えて離さない言葉を次々に発する特異な才能の持ち主で、

(１)「知能の構造化(詳細に拘らず全体像を捉える理解)」

(２)「他者を感じる力(自分を客観的できる能力)」

(３)「先頭に立つ勇気(支援型リーダーの気概)」

などを残した。

３．それに対して、濱田純一・現東大総長は、小宮山時代に広報担当理事・副学長を務めており、誠実な人柄は「タフな東大生の育成(異質な集団中にあっても簡単にはめげず、自律し、国際社会で通用する若者の育成)」の言葉に全て集約されている。

４．つまり、DeSeCo のキー・コンピテンシーのうち、

(１)は「他者を感じる力」で異質な集団中にあっても自分で客観視できる力をもち、簡単にはめげず、国際社会でも通用する「タフな東大生の育成」を指す。

(２)は「先頭に立つ勇気」や「タフな東大生」など自律した精神力・人間力を重んじ、瑣末に拘らず、高い視点から大局観を身につけることを説いている。

５．これは、文科省・中央教育審議会が 1996 年に提唱した。「生きる力」にも通じるものがある。（３）は、外国語とTCPを活用し世界に発進する力を指し、これも「タフな東大生」は発信力・コミュニケーション力を必須として重要視している。

６．これような二人の総長のキャッチフレーズと、DeSeCo のキー・コンピテンシーを具現化した教育学習センターを創りたい、というのが私たちの夢であった。

P61

[コメント]

東京大学の教養教育における OECD のキー・コンピテンシーの取り組みがよく示されている論文。OECD が示した世界の最先端の学力観であるキー・コンピテンシーの具体化を目指した東京大学の取り組みを 2011 年の念頭にあたり高く評価したい。

－ 2011 年 1 月 1 日林　明夫記－